

タカラバイオ (コード 4974)

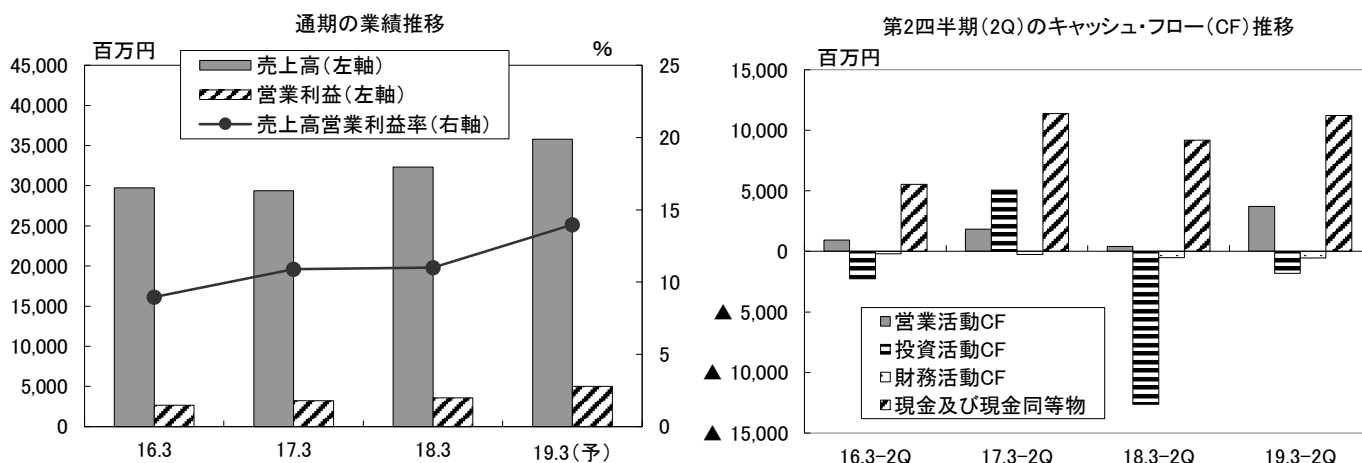
◆各決算期の第2四半期業績推移(連結)

決算期	売上高	営業利益	1株純利益	1株配	営業CF	投資CF	財務CF	現金及び現金同等物
16.3	13,257	684	1.2	0.0	938	▲2,265	▲204	5,548
17.3	13,199	1,377	5.5	0.0	1,848	5,066	▲245	11,386
18.3	14,126	688	2.5	0.0	410	▲12,619	▲518	9,184
19.3	17,370	2,623	14.3	0.0	3,713	▲1,803	▲540	11,218

◆通期業績推移(連結) (19.3 予は会社側予想)

決算期	売上高	営業利益	1株純利益	1株配	営業CF	投資CF	財務CF	現金及び現金同等物
16.3	29,729	2,667	11.1	1.8	3,021	▲4,177	▲221	5,568
17.3	29,375	3,202	11.2	4.0	3,584	13,493	▲280	22,200
18.3	32,312	3,555	19.4	4.5	3,935	▲14,755	▲1,205	10,051
19.3予	35,800	5,000	25.7	6.0	—	—	—	—

(CF=キャッシュ・フロー。現金及び現金同等物は各期末値。▲はマイナス。単位は百万円、円)



19年3月期第2四半期の業績概況…19年3月期の第2四半期累計期間(18年4~9月)の業績は、売上高173億7,000万円(前年同期比23.0%増)、営業利益26億2,300万円(同280.9%増)、経常利益26億6,900万円(同248.5%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益17億2,000万円(同468.5%増)となった。主力の研究用試薬が増加したことに加え、遺伝子医療事業で21億円強の売上が計上された(前年同期は無し)ことから、大きく増収増益となり、売上高営業利益率についても15.1%(前年同期は4.9%)へ上昇した。

セグメント別の売上高は、バイオ産業支援事業が143億1,600万円(前年同期比9.2%増)、遺伝子医療事業が21億4,400万円(前年同期は無し)、医食品バイオ事業が9億900万円(前年同期比10.2%減)。また、セグメント利益は、バイオ産業支援事業が25億8,800万円(同4.7%増)、遺伝子医療事業が11億9,800万円(前年同期は8億5,000万円の損失)、医食品バイオ事業が8,500万円の損失(同200万円の損失)となった(このほか、営業利益への調整額がマイナス10億7,800万円)。

バイオ産業支援事業において、売上高では研究用試薬が111億4,900万円(前年同期比11.5%増)、理化学機器が13億9,000万円(同6.5%増)に増加した一方、受託サービスが15億5,500万円(同2.2%減)に減少した。遺伝子医療事業については、日本におけるNY-ESO-1・siTCR® 遺伝子治療薬およびCD19・CAR 遺伝子治療薬に関する共同開発・独占販売契約にかかる対価

料および本契約にもとづく治験製品等の売上高を計上。研究開発費減も加わり、同事業のセグメント損益は黒字となった。医食品バイオ事業においては、売上高では健康食品関連製品が 2 億 4,700 万円（同 29.5%減）、キノコ関連製品が 6 億 6,200 万円（同 0.1%増）となり、販管費はほぼ前年同期並みとなったが、売上減が響いてセグメント損失額は拡大した。

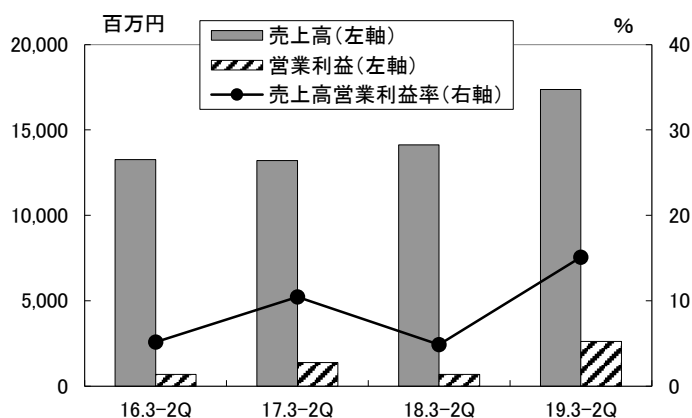
キャッシュ・フロー（以下、CF）の状況については、当四半期末の現金及び現金同等物残高が 112 億 1,800 万円（前年同期末比 22.1%増）に増加した。営業活動による CF では、税金等調整前四半期純利益が 24 億 3,600 万円（前年同期比 225.2%増）、減価償却費が 13 億 3,600 万円（同 7.1%増）、売上債権の減少額が 11 億 4,800 万円（同 32.8%減）、たな卸資産の増加額が 9 億 5,800 万円

（同 31.6%増）、仕入債務の減少額が 2 億 5,300 万円（同 66.4%減）、法人税等の支払額が 5 億 3,800 万円（同 35.8%減）となったことなどから、営業活動に伴う収入は 37 億 1,300 万円（同 805.6%増）に大きく増加した。投資活動による CF では、有形及び無形固定資産の取得、売却による差引支出額が 12 億 6,300 万円（同 605.6%増）、定期預金の預入及び払戻による差引支出額が 4 億 9,600 万円（同 71.0%増）に増加した一方、連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出が当四半期には無かった（前年同期は 123 億 9,600 万円）ことなどから、投資活動に伴う支出は 18 億 300 万円（前年同期比 85.7%減）に減少した。財務活動による CF では、配当金の支払額が 5 億 4,000 万円（同 12.5%増）に増加したことなどにより、財務活動に伴う支出は 5 億 4,000 万円（同 4.2%増）となった。

**19 年 3 月期の通期業績見通し**…19 年 3 月期の通期業績については、売上高 358 億円（前期比 10.8%増）、営業利益 50 億円（同 40.6%増）、経常利益 52 億円（同 34.6%増）、親会社株主に帰属する当期純利益 31 億円（同 32.8%増）の見通しで、18 年 5 月 11 日の会社側公表値から売上高のみ 10 億円減額修正された。1 株当たり年間配当金は、前期実績比 1 円 50 銭増の 6 円の予定となっている。

セグメント別の売上高予想は、バイオ産業支援事業 312 億 4,900 万円（前期比 5.7%増。修正前 327 億 1,900 万円）、遺伝子医療事業 25 億 9,000 万円（同 418.1%増。修正前 18 億 6,000 万円）、医食品バイオ事業 19 億 5,900 万円（同 12.7%減。修正前 22 億 1,900 万円）。バイオ産業支援事業のうち、研究用試薬が 235 億 900 万円（同 5.9%増。修正前 240 億 7,100 万円）、理化学機器が 26 億 8,000 万円（同 1.7%増。修正前 32 億 6,200 万円）、受託サービスが 45 億 5,800 万円（同 8.3%増。修正前 50 億 200 万円）など、医食品バイオ事業のうち、健康食品関連製品が 3 億 9,800 万円（同 42.5%減。修正前 5 億 5,500 万円）、キノコ関連製品が 15 億 6,000 万円（同 0.6%増。修正前 16 億 6,400 万円）となっている。

第2四半期累計期間(2Q)ごとの業績推移



本レポートは、会社側が発表した決算短信や決算説明資料などに基づき作成しており、証券投資の参考となる情報の提供を目的としたもので、証券の売買を勧誘する目的で作成したものではありません。株式の売買取引には、約定代金に対して手数料が必要となります。また、株式は、株価の変動により損失が生じる恐れがあります。投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断でなさいますようお願い致します。本レポートは各種データに基づいて作成していますが、その正確性・完全性を全面的に保証するものではありませんので、予めご了承下さい。なお、本レポートの著作権は西村証券に帰属しており、電子的・機械的などの方法を問わず、無断で本レポートを引用または複製、転送することを禁じます。